

## II.日本医師会の取り組み

### 1. 診療現場からの情報収集、診療現場への情報提供

「食」は「健康な生活」にとって最も基本的な要素です。他方、健康食品は、美容、健康の保持増進のため摂取するものですが、実際には被害例の発生もみられます。

医療提供者の立場から見て、健康食品には、次のような問題点が挙げられます。

- ・副作用、アレルギー等
- ・医薬品との相互作用
- ・過剰摂取
- ・医師の健康食品に関する情報不足
- ・過大な宣伝方法と、患者の過信による診療機会の逸失

また、患者が健康食品の摂取を医師に伏せているケースは、疾病との因果関係の把握の遅れや、処方した医薬品との相互作用の発生につながりかねません。

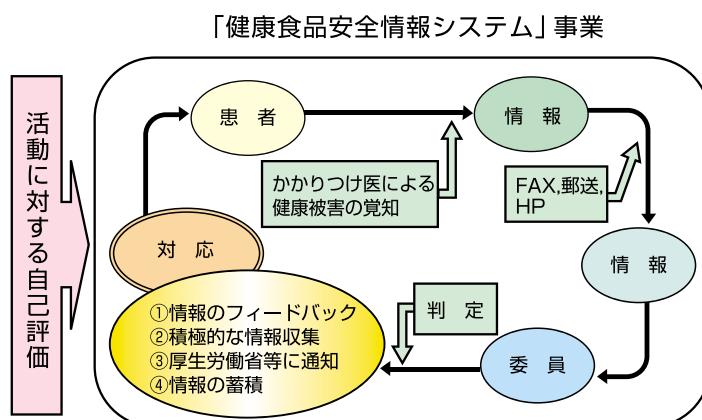
日本医師会では、健康被害の把握とその情報提供を目的として、2007年より、17医師会が参加して健康食品を対象とした「食品安全に関する情報システム」モデル事業を開始し、現在は全都道府県（全医師会員）の協力による「健康食品安全情報システム」事業を実施しています。

この事業では、次のような場合に、診療の現場から情報を提供してもらい、検討の上現場に結果を還元して診療等に役立ててもらうということを目指しています。

- ①患者の症状が、摂取した健康食品と何らかの関連をしている可能性がある場合
- ②患者の服用している医薬品と摂取健康食品との間に相互作用の可能性がある場合
- ③宣伝文句を過信した患者が摂取健康食品に依存し、治療中断等が起きた場合

これまで、モデル事業での例も含めて60数例の情報提供をいただきました。その中には、本パンフレットに掲載されている事例に該当したケースもみられます。

また、「健康食品とのつきあい方」が重要ということもわかりました。例えば、18種類の健康食品を摂取していたケースがありました。健康食品を一度に大量摂取してしまうことの危険性を、多くの方々に理解していただく必要があります。さらに、健康食品の摂取目的をみると、



「健康の保持・増進」が6割程度、「疾病の予防」と「治療」がそれぞれ1割強でした。こうした目的で摂取する健康食品は、医薬品成分を含有している場合が多く、リスクも高いと思われます。

一方で、情報提供をした医師会員が当該患者のかかりつけの医師であった例は7割強を占め、そのうち、患者が健康食品を摂取していることを知ったきっかけは「患者の自発的な相談」と「患者の症状」が計6割でした。したがって、健康食品における安全対策にはかかりつけ医機能の推進が重要といえます。同時に、健康食品を摂取している方々は、医師にそのことを告げることも大切です。診療現場でも、問診表や診察時に健康食品の摂取を聞いていただければ幸いです。

## 2. 一般の方々、日本医師会員への情報提供

日本医師会では、これまでの取り組みから、一般の方々へのポスターやホームページによる啓発活動を行っています。

また、健康食品の安全対策には、医師が、健康食品の有効性や有害性、医薬品との相互作用などの情報に、容易にアクセスできる情報データベースも不可欠です。

そこで日本医師会では、すべての会員を対象として、世界最大級の健康食品データベースであり、健康食品の有効性、安全性、医薬品との相互作用（飲みあわせ）や事例などを網羅している“ナチュラルメディシン・データベース”（日本語版）をWEB上で無償閲覧できるようにしています。（日医HP (<http://www.med.or.jp/>) 内のメンバーズルーム（医師会員専用ページ）よりリンク）

同時に、会員向けのポスターも制作し、これまでの事例報告と簡単な解説を行っています。

[12] 第1210号

日 医 ニ ュ ース

〔第2種郵便物認可〕平成24年6月25日

# 健康食品やサプリメントを摂りすぎていませんか？

1日3食、バランスのよい食事が大切です。

- 「健康食品」やサプリメントは、摂り過ぎや、服用している医薬品との間で、思わぬ健康被害が発生することもあります。
- 体に不調を感じたら、すぐに、かかりつけの医師にご相談を！
- 医師に、「健康食品」やサプリメントを摂っていることを伝えましょう！

日本医師会では、全国の会員医師の協力の下、「健康食品安全情報システム」事業を実施しています。

<http://www.med.or.jp/people/info/knkshoku/>

平成26年4月号 (第3回連絡会刊)

日 医 ニ ュ ー ス

JMA

日本医師会員の皆様へ

詳くは、医療品質のすべて「ナチュラルメディシン・データベース」をご覧ください。

日本医師会ホームページ・メンバーズーム(会員向けサイト)の「地域医療・診療支援」より、アクセス。

実際の事例も掲載しています。

お問い合わせ先: 日本医師会 (地域医療第一課 03-3942-6137)

日本版会員の「健常食全般情報システム」(平成23年度)※及び「食品安全に関する情報システム」モザイク事業(平成18年度~22年度)には、以下の二つの構成を示す概要が報告されています。							
性別	年齢	主な成分量	併用薬	症状・嚥下感・診断名等	対応医療機関・飲食量との関連性	治療の経度・軽重	判定周数
							1
男性	62	ノンカロリー アミノ酸入り リポ酸	ロコモ <sup>®</sup> 、ヒルズ アミノテープ <sup>®</sup>	食事制限 (約1kg)、胃腸運動 <sup>®</sup>	医師的・推定	田代	4
女性	70	ノン	—	肝機能検査 GTOT4, GPT3, LDH246, ALP996, γ-GTP	医師的・認定	田代	3

注2:判断結果は真正性、緊急性、重要性に基づき、レベル5(警告・禁止)、レベル4(注意喚起)、レベル3(監視)、レベル2(観察)、レベル1(復容)に判定される。

## 解説

「事例」に示されているように、日本医師会健康食品安全情報システムに、ノニの摂取による肝障害の症例が報告されてい

る。諸外国でも少なからず肝障害が報告されている。ノニ摂取後、2週間から4カ月以内に発症している。摂取中止後2日で肝機能検査値が改善し、1カ月経過すると正常化しているようである。病理所見としては、急性肝炎、炎症、肝細胞壊死、

肝臓内粗糞うっ滞が認められている。ノニジュースに含まれているアントラキノン(anthraquinone)、アロエ、センナ、ダイ

オウなどにも含有)が原因物質であるという説もあるが、肝障害を起とした製品からアントラクノンは検出されなかったという論文もあって、今後の課題となっている。肝毒性・潤作用をもたらす可能性のある医薬品を投与されている患者はノニを摂取

ACE阻害薬、ARBなどの相互作用は、ノンジアスルカルボウムが多く含まれていること( $36\text{mEq/L}$ )から、高カリウム血症

ACEを経由して、RAASなどとの相互作用により、ノニエースルホカドグリが導かれていたこと（OONO et al.）から、血栓形成の発症が理論的に推測されている。しかし、ノニジュースを摂取している腎不全患者が高カルシウム血症を起こしたという症例がある。

民間伝承的に、ノニは多くの疾患・症状に有効であると信じられてきているが、ヒトを対象とした無作為化比較試験

(RCT: Randomized Controlled Trial) ではなく、動物実験や *in vitro* 試験にとどまっている。アメリカ NIH の国立補完・代替医療センターは第Ⅰ期 (phase I) 試験を開始したが、結果が明確のところが少くない。

各医療センターは第1組(0038)の臨床試験を開始したか、結果は現在のところ公表されていない。

表10 国内の健康食品に関する情報提供サイト

組織等の名称	アドレス	主な提供内容
厚生労働省 (食品安全情報)	<a href="http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/index.html">http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/index.html</a>	主に有害事例が中心
内閣府食品安全委員会	<a href="http://www.fsc.go.jp/">http://www.fsc.go.jp/</a>	主に安全性評価が中心
消費者庁	<a href="http://www.caa.go.jp/">http://www.caa.go.jp/</a>	国の食品の表示に関する制度 (特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品など)
国立医薬品食品衛生研究所 (食品に関する情報)	<a href="http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/index.html">http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/index.html</a>	食品全般に関する安全性の国内外情報。
日本医師会 (健康食品のすべて－ナチュラルメディシン・データベース)	<a href="http://www.med.or.jp/">http://www.med.or.jp/</a> (メンバーズルーム (日本医師会員向けHP) よりリンク)	健康食品の有効性、安全性、医薬品との相互作用(飲みあわせ) の解説など。症例も掲載。
(独) 国立健康・栄養研究所「健康食品」の安全性・有効性情報	<a href="http://hfnet.nih.go.jp/">http://hfnet.nih.go.jp/</a>	健康食品に関する基礎的情報、各成分に関する有効性や安全性の論文情報、有害情報など
(独) 国民生活センター	<a href="http://www.kokusen.go.jp/">http://www.kokusen.go.jp/</a>	健康食品に関する個別の製品情報の検査結果など
東京都健康局食品医薬品安全部 (いわゆる健康食品ナビ)	<a href="http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/anzen/supply/index.html">http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/anzen/supply/index.html</a>	主に健康食品に関する制度が中心
(財) 日本健康・栄養食品協会	<a href="http://www.jhnfa.org/">http://www.jhnfa.org/</a>	製品の規格など、業界として必要な情報が中心